

大草谷津田いきものの里 自然観察会

冬の木肌ウォッキング

芳我めぐみ（千葉市）

日 時：2016年12月18日（日）10時30分～12時

天 候：晴れ

参加者：8名（大人6名 子ども2名）

担当指導員：川北紀子・芳我めぐみ

2016年最後の観察会は穏やかなお天気に恵まれました。そのため？大掃除、買い物など年瀬忙しい小さなお子さん連れのお母さんの参加はありませんでした。

大草にはシラカシ、スダジイなどの常緑広葉樹、植林されたスギ、ヒノキ、かつての薪炭生産で植えられたままのコナラ、クヌギなどの落葉広葉樹、鳥が運んだ林床の多種の灌木…など多種の樹木が見られます。その樹木を見分けるのに冬は木肌（樹皮）を一つの手掛かりにします。よく観察してみればそれぞれに特徴がありいくつかを自分で見分けられれば木に愛着がわくというものです。はじめに樹皮の役割、利用、いきものや人との関わりなどを話して観察会をスタートさせました。

木肌が滑らかなムクノキ、ぶつぶつがあるエノキ、滑らかで白っぽい縦縞模様のイヌシデは分かりやすく皆さんすぐ覚えました。スギ、ヒノキ、サワラは樹皮がよく似ていて区別が難しいのですがこちらは葉で区別。ヒノキとサワラは葉裏の気孔の模様で見分ける他、香りの有無も感じてもらいました。

いきものの里内で一番立派（と私は思っています）で観察路に立っているケヤキの樹皮の観察です。古くなった樹皮はうろこ状にはがれます。ジグソーパズルの切片のようです。時間があったら手にした切片と合う場所を探すと面白そう！

めじろんばに出るとクヌギとコナラが多数見られます。材を伐って横にしてみれば樹皮の盛り上がりがクヌギはひらがなの「く」コナラはカタカナの「コ」に見えたと覚えましたと川北さんの説明に皆さん納得して「これはクヌギ、これはコナラ」と実地研修していました。谷津田の観察路は落ち葉の絨毯。踏んで歩く感触と音は楽しい。林縁のヤマザクラはサクラらしい樹皮で皆さんもすぐわかりました。同じ桜でもウワミズザクラは樹皮を見て桜の仲間と気が付かない人が多いです。ニシキギは枝に翼をつけています。最後にトゲトゲの樹皮を持つものとしてサンショウ、ハリギリ、モミジイチゴ、メギを紹介しました。「スギ、ヒノキ、サワラ、イヌシデ、コナラ、クヌギ、これは覚えた！」と参加者のお一人。凄い！ 充分です。

途中落ち葉の中からシュレーゲルアオガエルを見つけた子供たちは大喜びしていました。コバネイナゴ、ジョロウグモもまだ見られ、成虫越冬のキタテハ、ホソミオツネントンボも見ることが出来ました。葉を落とした樹々と緑の常緑樹の眺め。稻刈りの終わった田んぼ。落ち葉の絨毯の観察路。いきものの里は美しいなと改めて感じました。

